



院長
須藤 英仁

私たちの約束

春とはいえ一日ごとに20℃も気温が変化する日が続いた3月でした。皆様、からだの調子はいかがでしたか？おかわりありませんでしょうか？

本日4月1日より平成16年度が始まりました。設備面では3月20・21日の連休中に、最新のマルチスライスCTと乳房撮影装置が設置され、稼動し始めました。

人事面に関しては、富岡看護専門学校1名、渋川看護専門学校1名、前橋高等看護学院1名の計3名が高等看護学校を卒業し、碓氷安中准看護師学校を6名が卒業したことで、総勢9名の看護師・准看護師が誕生しました。すばらしい医療・介護のスタッフが私どもの病院にくわわりました。

さらに、ご存知の方も多いと思いますが、今回増田孝子看護師が群馬県の主催で行われていた、看護師学校教員の資格を得るための1年間という長い教員教育を終了し、病院に戻って参りました。約30名の看護師が教員になるべく勉強を行ってきた訳ですが、私たちのような小規模の病院からの派遣ははじめてであったと思います。増田孝子看護師が1年もの長期間、不在である

ということは、本当に大きな痛手でありましたが、すべての病院職員の協力で何とか乗り切れたと思っております。

文頭で9名の看護師・准看護師が誕生したと申しましたが、まだまだ資格を取ったというだけであります。プロ中のプロというには、まだまだ程遠い段階であります。卒業したての看護師に、私たち医師が医学的な教育をすることはもちろんであります。増田孝子看護師による看護教育に大きな期待を寄せるものです。

先日、入院患者様から次のようなお叱りを頂きました。「夜勤の看護師が、話も何もしないで仏頂面で仕事をしている」というものでした。医師・看護師・介護の人間の最も大事な点のご指摘でありました。職員も十分にそろいつつあります。そこで今回、職員が患者さんのために心を一つにして働けるように、須藤病院職員の『わたしたちの約束』を作らせて頂きました。それが、紙面左上方の五つの約束です。これを行行動の規範とし、日々の業務に努力していきたいと思っております。

患者様にお願い致します。職員がこの規範にそって接しているか、よろしくご指導下さい。先ほどのお叱りを受けた看護師はまだ卒業したての若者です。その看護師は人生経験豊かな方々との、会話の経験が少ないのかもしれませんが、愛想の一つも言えないのかもしれませんが、そんな時はどうぞ、一人前の看護師に育てるための常識を教育して下さい。

こんな勝手なことを皆様にお願ひし、平成16年度も、しっかり進歩していきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

病気の話 乳がん（第一回）

当院では、このたび乳房撮影ガイドラインに適合した最新式の乳房撮影専用X線診断装置（マンモグラフィー）を設置しました。これを機会に何回かに分けて乳がんの話をしたと思います。

マンモグラフィーとは、乳がんを診断する方法のひとつで、乳腺・乳房専用のレントゲン撮影です。触っても判らないような早期の小さな乳がんや、しこりを作らない乳がんを、腫瘍や非常に細かい石灰化（微小石灰化）として見つけることができます。もちろん、悪性の病気だけではなく、良性のものも見つかります。

レントゲンというと放射線の影響が気になると思われますが、マンモグラフィー撮影の放射線が人体へ及ぼす危険性はほとんどなく、一回の撮影で乳房が受ける放射線の量（1～3ミリグレイ）は、たとえば妊婦のお腹の中の胎児が（奇形などの）影響を受けるとされる量（100ミリグレイ）に比べると、非常に少ない量で、一般成人であればまず心配無い量といえます。

生活習慣の欧米化の影響もあり、日本女性の乳がんが年々増加する傾向にあります。日本女性の癌のうち、乳がんは罹患率（病気にかかっている割合）で、胃がんを抜いて第一位になっており、比較的若い30歳から65歳未満の女性の死亡率では、乳がんが最も多くなっています。

今回導入した装置により、約50 μ m～0.1mmレベルの微小石灰化（癌や

良性腫瘍で見られるカルシウムの沈着）や、腫瘍のより鮮明な描出が可能となりました。マンモグラフィーを、超音波検査や視触診と併せて施行することで、より早期の乳がんを見つけることが可能です。

マンモグラフィーを視触診と併せて行なった乳がん検診は視触診だけの検診に比べて、2～3倍の乳がんの発見が可能です。すでに一部の自治体ではマンモグラフィーを併用した検診を実施しており、今後は徐々にマンモグラフィーを併用した検診が必要になってくると思われます。当院では既にその準備が整っています。また、読影（マンモグラフィーを見て病変を見つけること）に関しても、当院では2名の医師が検診マンモグラフィーの試験に合格しており、必ず2名でダブルチェックをして見逃しにくい病変も見逃しがないようにしています。

皆さんが安心して検査を受けられるよう、せっかく受けていただいた検査で見逃しがないよう、そして皆さんにより質の高い医療が提供できるよう、努力していく所存です。また最新の医療器械などで、早期診断・早期治療につながるものであれば、今後も積極的に導入していきたいと考えています。

次回は診断の実際について検査の流れにそって、お話ししたいと思います。

医師 小野 聡